

～自治会町内会の活動～

区民の皆様には日ごろから地域活動へのご協力とご支援を賜り、誠にありがとうございます。自治会町内会は、地域の安全・安心、そして笑顔を支える大切な場です。イベントや清掃活動、防犯パトロール等を通じて、住民同士のつながりが深まり、災害時の助け合いにもつながります。無理をせず、できることをできる範囲で活動していただくことが自治会町内会の基本です。是非これからも、楽しく無理なくご参加ください!



(下永谷地区 あざみ町内会)



(港南台地区 日の峰自治会)



(上大岡地区 上大岡第二町内会)



(港南区連合町内会長連絡協議会)

これからも互いに支え合い、安全で誰もが安心して元気に暮らせるまちづくりを共に進めてまいりましょう！皆さまのご参加とご協力に、心より感謝申し上げます！

2027年3月、横浜で開幕
【期間】2027年3月19日～9月26日

「GREEN×EXPO 2027」とは

A1クラスの
国際園芸博覧会
37年ぶりの
日本開催

2027年に神奈川県横浜市(旧上瀬谷通信施設)で開催される国際園芸博覧会の略称です。「植物」、「花」、「緑」を総称し、「自然」、「環境にやさしい」という「GREEN」、国際的に共通する課題の解決に寄与する国際博覧会「EXPO」という語を掛け合わせ、これらの自然と人、社会の持続可能性を追求し、世界と共有する場であることを表現しました。日本では1990年の大阪花の万博以来37年ぶりとなる最上位(A1クラス)での開催で、BIE(博覧会国際事務局)認定の万博でもあります。



ひまわりの声では、港南区連合町内会長連絡協議会を「区連会または港南区連会」港南区社会福祉協議会を「区社協または港南区社協」と記載しています。

編集後記

■本号ではこども食堂・地域食堂についての意見交換会、GREEN×EXPO 2027に関する内容を掲載しております。ぜひ、ご一読ください。

■本紙及び区連会へのご意見・ご要望は区連会事務局までお寄せください。

■編集委員 筒井英子 横浜市港南区港南 4-2-10
■区連会会報担当 宮島由美子／田代孝之 ☎ 847-8391 FAX 842-8193

2025.12.1 発行

No.23



～誰もが安心して健やかに暮らせる地域へ～

港南区連合町内会長連絡協議会会长 古屋 文雄

区民の皆さまには、日ごろから自治会町内会、区連会の活動にご協力とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

今年もカムチャツカ半島沖の地震による津波警報や、横浜市内にも発表された記録的短時間大雨情報、熊本県の大暴雨特別警報等、災害に対して気になるニュースが多くありました。幸い私たちが住む地域は大きな被害を受けることはありませんでしたが、昨年の能登半島地震に引き続き、防災に関する関心が高まっているように感じます。



昨年12月からは、港南区において事業所の資機材や人材等の技術力・組織力を活かし、事業所も地域の一員として防災活動に協力いただくことを目的とする「港南区災害時協力事業所登録制度（こうなん災害時協働隊）」が開始となりました。

災害直後に自分や家族の身の安全を守ること、生き延びるための備えをしておく「自助」は一番大切ですが、その上での「共助」という時に地域のみんなで助け合う「共助」も地域防災力を高める上で重要となります。災害時に住民だけではなく、港南区内の事業所の方々にもご協力いただけるということは、非常に有難いことだと感じております。もちろん、私たち区連会も地域の安全と安心を守るために皆様と一緒に活動を進めてまいりますので皆様も日ごろからご近所の方と顔の見える関係をつくっていきましょう。

次年度からは「港南ひまわりプラン（地域福祉保健計画）」の第5期がスタートします。「地域のつながり」や「支えあい」を深め、一人ひとりが身近な地域で安心して健やかに暮らしていくためには、区民の皆さん・活動団体・行政等が協働でより良い地域づくりを進めていくことが大切です。

引き続き、区民の皆さまのご協力、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

港南区長から地域の皆様へ

港南区長 栗原 敏也

皆さまには、日ごろから港南区政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

港南区では、例年9月から翌年2月にかけて、各地域防災拠点にて地域が主体となり熱い入った訓練が行われており、そこに今年度から「こうなん災害時協働隊（以下協働隊という）」が加わります。「協働隊」には、9月現在で160社の事業者の皆様にご登録いただいており、事業所も地域を構成する大切なパートナーとして関わっていただくことで、「協働による地域づくり」のステージが一段上がってきたと実感しております。

また、今年度も自治会町内会の皆様が企画してくださったイベントにお邪魔させていただきましたが、地域の皆さまが楽しく笑顔で活動されているのを見て、大変嬉しく思いました。地域のために活動されている自治会町内会の皆さまに改めて感謝申し上げます。

これからも区民の皆さんと一緒に「協働による地域づくり」を進め、安全で誰もが安心して元気に暮らせるまちを目指してまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



こども食堂・地域食堂から考える こどもたちへの支援について ~ 区連会・区協合同意見交換会 ~

令和7年8月20日、港南区連会・港南区社協、行政職員等が参加し、「区連会・区協合同意見交換会」が開催されました。「こども食堂・地域食堂から考える こどもたちへの支援について」と題し、横浜メンタルサービスネットワークの吉成氏、のばこども食堂 主催 こんぺいとう倶楽部の三橋氏による講演後、グループに分かれて意見交換を行いました。



横浜メンタルサービス
ネットワーク
吉成様

- ・法人は精神障がい者等の生きづらさを抱えた人の社会参加を促進する事業の一つとして「駄菓子屋カフェ Irodori」や子どもとみんなの食堂、中高生の居場所を実施している。食堂は月1回開催している。
- ・活動をしている中で、こどもたちの成長には、地域の人たちとのつながりが大事だと感じている。夏祭りや餅つきなど地域の皆さんのがイベントを企画してくださることで、参加するこどもたちの成長に繋がっていると思う。一方、そのようなイベントに来ないこども、参加できないこどももいる。
- ・そういったこどもたちの居場所の1つになればと思い、活動している。
- ・地域で見守る中で心配なこどもがいたら、皆さんのお近くで行っているこども食堂やこどもの居場所のことを紹介してほしい。
- ・最初はこどもの貧困を何とかできないかという思いで、こども食堂のボランティアをしたいと思った。区連会に相談したところ、「立ち上げてみてはどうか」との話があり、様々な人と相談する中で、こども食堂を立ち上げることになった。
- ・初めは大人も対象としていたが、こどもに100円でお腹いっぱい食べてほしいという思いから運営してきて、今はこどもだけを対象としている。
- ・現在は貧困だけではなく、孤食防止にも繋がればいいと思い、活動している。
- ・運営は、個人や地域の企業の方からの食材の寄付等、様々な方から支援いただいています。もしもこども食堂に寄付いただけるのであれば、賞味期限が長めのものや、個包装のお菓子、調味料等をいただけるとありがたい。



のばこども食堂 主催
こんぺいとう倶楽部
三橋様

～意見交換について～

5つのグループに分かれ、それぞれの地区での現状や取組等について話し合いを行いました。



- ・こども食堂は、「居場所づくり」という視点で取り組むことが大事。みんなで協力するという考えも大事。
- ・こどもと高齢者が触れ合える場が増えるのは好ましい。町内会館や自治会館を使って広めていければ。
- ・こども食堂と地域が分断しないように、連携してやっていく必要がある。
- ・地域の皆さんの協力がないとボランティアも集まらない。
- ・食事にこだわらず、ネットワークづくりや集まりの場が重要。仲間づくりは柔軟に対応する必要がある。
- ・継続的に通っていた子が成長し、その子が手伝い側に回る例もある。
- ・こども食堂は特定の者を対象とせず、誰でも対象としている運営が増えてきた。
- ・地域の大人が孤立しているこどもたちを把握してつなげる役割が必要。
- ・子どもの孤食防止のための「こども食堂」をやりたいとの声が出てきた。
- ・放課後の居場所がないこどもたちが相当数いる。町内会館を週何回か開放して、学習支援も含めた居場所づくりができるのではないか。
- ・子どものうちから地域との絆を作っていくとよい。中学生が夏祭りの担い手として手伝ってくれた事例もある。

各グループからの意見を通じ、「こども食堂・地域食堂」は単なる食事提供の場ではなく、地域の居場所づくりや世代間交流、ボランティア育成など多様な役割を担っていることが分かりました。



古屋区連会会長



荻久保区連会会長



高森顧問



栗原区長